

これまでに観察された生物

■震災後に確認された生物

これまでに4回蒲生干潟を調査することができた。右は観察できた生物の一覧である。

Fig.1のアシハラガニは最初に調査に入った4月13日から観察されているが、6月14日の調査時には葦原が減少傾向にあり本来の生息環境ではなく瓦礫の隙間やシート影に生息していた。当然ながら震災前と比較して数は大幅に少なくなっている。貝類ではイソシジミは比較的多く見られるがアサリは1個体が採集できたのみである。

投網を使っただけの採集で最も多く採集されるのはボラ (Fig.6)である。多くの稚魚とともに40cm程度の成魚も干潟内に入り込んでいた。イシガレイの稚魚、クサフグの未成魚も多く見られた。クロダイやメジナも含めこれらが成長していけば「海のゆりかご」としての干潟の機能が回復したと考えられるであろう。

種名	学名
アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>
クロベンケイガニ	<i>Chiromantes dehaani</i>
ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>
コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>
イソクズガニ	<i>Tiarinia cornigera</i>
ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>
ヤドカリの一種	<i>Paguroidea sp</i>
オキナガレガニ	<i>Planes cyaneus</i>
エビジャコの一種	<i>Crangon sp</i>
タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>
イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>
アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>
クロダイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>
マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>
ボラ	<i>Mugil cephalus</i>
イシガレイ	<i>Kareius bicoloratus</i>
クサフグ	<i>Takifugu niphobles</i>
メジナ	<i>Girella punctata</i>
チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>



Fig.1 アシハラガニ



Fig.2 コメツキガニ



Fig.3 イソクズガニ



Fig.4 エビジャコの一種



Fig.5 イソシジミ



Fig.6 ボラ



Fig.7 クロダイ